

数学

必須

●薬学部 薬学科

選択

●医療保健学部 医療技術学科

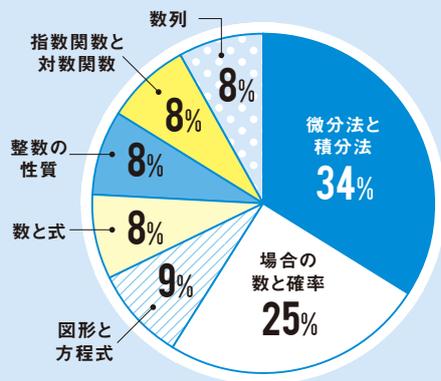
●国際コミュニケーション学部 心理社会学科

頻出問題の解法をしっかりと身につけよう。 マーク式特有の対策も怠らずに!

出題分野

✓ 微分法・積分法を中心に 出題範囲の各分野から バランスよく出題!

出題範囲は数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bで、大問3題の構成。大問1は小問が6問出題され、出題分野は「数と式」「指数関数と対数関数」「整数の性質」「数列」「図形と方程式」「微分法と積分法」。大問2と大問3は小問誘導形式。大問2は「微分法と積分法」から3次関数の接線に関する問題、大問3は「場合の数と確率」から条件付き確率の問題が出題された。「微分法と積分法」の割合が高いが、どの分野からも比較的偏りなく出題されている。「微分法と積分法」を中心に、各分野バランスよく対策をしておきたい。難易度としては、教科書や標準レベルの典型的な問題が多い。基本となる定理・公式を理解して、これらを応用する力が問われているといえる。



出題形式

✓ 全問マーク式。 素早く解法を判断し、 正確に計算する力が問われる!

解答形式はすべてマーク式で、最終的な答えをマークする方式だ。そこで、マーク式の特徴をとらえた次のことを意識してほしい。

【マークの解答ルールを押さえる】

マーク式の解答ルールは、入試問題の冒頭に示されていることが多い。解答ルールは大学により若干異なる場合もあるので、問題を解く前に、解答の注意点をきちんと確認しておくこと。

【計算は丁寧にを行う】

マーク式は記述式と違い、考え方や途中過程は評価されない。だから、途中で計算ミスをするとう点にならない。そこで、暗算でできるような計算でも丁寧に確認しながら進めることを心がけたい。

【マークの形を押さえる】

マーク式では、自分の解答がマークの解答欄と合っていないと気づくことができる。このような利点にも注目しよう。

【マーク式特有のよくあるケアレスミスを把握する】

解答終了のタイミングで解答欄のずれに気がつく…。このようなマークの塗り間違いなどのケアレスミスは意外に侮れない。マーク式では、記述式とは異なる観点で、正確性を要する答案作成力も必要だ。

北陸大学 数学の攻略法

01 入試の過去問題を活用して、 時間内に正確に解く練習を!

10問を超える小問を制限時間内に解くためには、問題を見てすぐに解法を組み立て、正確に計算して答えを導く必要がある。これを実践できるようにするために、問題集や過去問題で頻出問題の解法をしっかりと身につけておこう。同時に時間配分の感覚を養うことも大切だ。

02 頻出分野、得意・苦手を把握し、 効率よい対策で得点力を上げる!

「微分法と積分法」を中心にひと通り対策をして、得意・苦手を把握しておきたい。苦手分野は基本問題を中心に、得意分野はより早く正確に解けるように時間を意識しながら演習しよう。マーク式でも計算過程を残しておけば、計算の精度が上がり、見直し時間も節約できる。

金沢大学・富山大学との比較

金沢大学(理系学域)の2次試験は大問4題、小問10問。大問1の三角形の性質と確率に関する問題以外はすべて数学Ⅲの分野から出題されている。また、富山大学(理系学部)の2次試験は大問3題、小問11問で、大問2の不等式の証明問題以外は、やはりすべて数学Ⅲの分野からの出題。両大学とも解答形式は記述式だ。このように、北陸大学とは出題分野も解答形式も異なるため、金沢大学や富山大学の対策には直結しにくい面もある。ただし、北陸大学の入試問題は公式をただあてはめるだけのものではなく、理解したうえで応用力を試す内容。マーク式とはいえ最終的な答えをマークさせる方式だ。そのため、問題文を解釈して的確な解答方針を決定する力が重要となる。これは3大学の共通点といえよう。基本知識を理解し、使いこなせるまで習得するという北陸大学の対策は、金沢大学や富山大学の2次試験対策の第一歩としても有効なのだ。問題を読み、解法の糸口を探り、素早く解法に結びつける力を身につけたい。普段の演習の際も、解答・解説をよく読んで重要な解法を押さえよう。それらの解法を応用したり組み合わせたりすることで、初出の問題でも慌てずに対応できるようになるはずだ。